

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第19週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第19週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第19週（令和4年5月9日から令和4年5月15日まで）

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.30人と前週（3.03人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.19人と前週（0.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

### 今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～報告数が5週間ぶりに増加～”について取り上げました。

川崎市における令和4年第19週（5月9日～5月15日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は3741件と、5週間ぶりに増加に転じました。

現在流行の主流であるオミクロン株のBA.2系統は、今年の3月頃主流であったBA.1系統と比べ感染力が強いものの、ワクチンの有効性は同程度とされています。国内で使用されているmRNAワクチンの3回接種は有効性が高く、重症化率を大きく下げただけでなく、累積罹患率も5割以下まで低下させると海外のデータで示されています。

感染の再拡大を防止するためにも、すでに2回接種をされている方は是非3回目の接種を検討しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

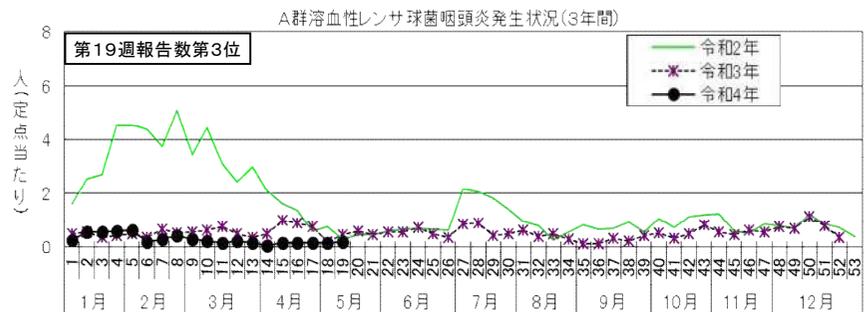
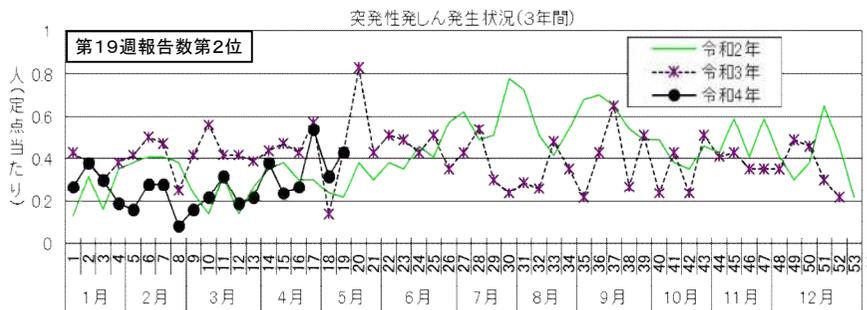
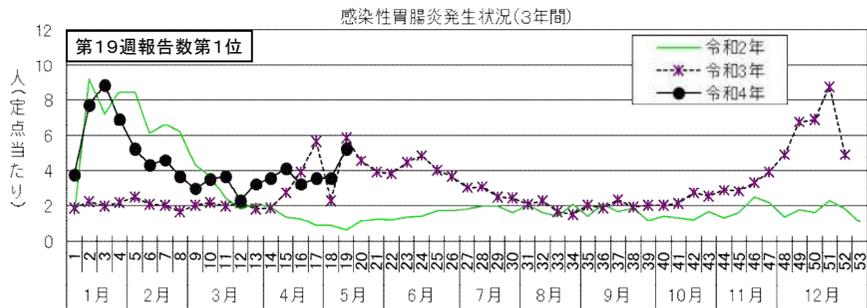
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月9日（月）～令和4年5月15日（日）〔令和4年第19週〕の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.30人と前週(3.03人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週(0.32人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.19人と前週(0.05人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



## 新型コロナウイルス感染症～報告数が5週間ぶりに増加～

川崎市における令和4年第19週(5月9日～5月15日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は3741件と、5週間ぶりに増加に転じました。

現在流行の主流であるオミクロン株のBA.2系統は、今年の3月頃主流であったBA.1系統と比べ感染力が強いものの、ワクチンの有効性は同程度とされています。国内で使用されているmRNAワクチンの3回接種は有効性が高く、重症化率を大きく下げるだけでなく、累積罹患率も5割以下まで低下させると海外のデータで示されています。

感染の再拡大を防止するためにも、すでに2回接種をされている方は是非3回目の接種を検討しましょう。

